



聖金曜日 (ヨハネ 18:1-19:42)

イエスは自らの意志で十字架を選ばれた

聖金曜日、主イエスがわたしたちのために十字架で命をささげてくださいました。主の受難の神秘を、わたしたちが確信をもって証しできる、そのためのきっかけを見つけないと思いません。

わたしたちは、心のどこかで、「イエスさまは十字架にかけられたのであって、みずから十字架にのぼられ、命をささげたとは言えないのではないか」と思っているかもしれません。

イエスさまが十字架を通して救いを成し遂げられたと信じていても、十字架にかけられたのはやはり悪意を持った人間たちから強いられたのではないか。その思いは拭えないのではないのでしょうか。

実はわたしも、その疑問に明快に答えることができないでいました。しかし、先週の金曜日にその疑問が解けました。いくつものことを重ね合わせて、わたしなりに「イエスは確かにみずから十字架で命をささげることをお選びになったのだ」と断言できると思ったのです。

先週金曜日の朗読は敵意を持ったユダヤ人たちがイエスを取り囲んでいる場面でした。彼らはイエスを石で打ち殺そうとして、石を取り上げました(ヨハネ 10・31 参照)。しかし実際には実行されませんでした。イエスは何度も捕らえられそうになったり、崖から突き落とされそうになったり、殺されそうになったのですが、一度も実現しませんでした。これは、しるしだと思うのです。つまり、人間は誰も、イエスを捕らえ、殺すことはできない。その確かな証拠なのではないのでしょうか。

ですから、最期の場面でイエスがはりつけにされている場面も、わたしはこう思ったのです。「人間が何度もイエスの命を狙い、殺そうとしても成功しなかったのに、一度だけそれが成功したというのは考えにくい」と。最期の場面も、実はイエスが十字架にのぼられることをお望みにならなければ、実現しなかったのです。

今は、確信をもって言うことができます。イエスの十字架上でのいけにえは、イエスが望まれたから実現したのです。御父の望みにイエスが「はい」と答えてくださったから、イエスは十字架上で命をささげてくださいましたのです。誰かの強制ではなく、イエスが望まれた。わたしたちはこの点を、確信をもって証しすべきです。

今までは、十字架にかけられたイエスさまのご像を、教会を訪ねてきた人に自信を持って語るができなかったかもしれません。復活のイエスが教会のシンボルの御像ならよかったのと思っていたかもしれません。でも今日からは、堂々と十字架にかけられたイエスを証しできる人になってください。わたしたちのために十字架にのぼられたイエスは、おんみずから十字架をお選びになって、御自分の意志で、十字架の上で救いのわざを完成してくださったのです。